

関西経済レポート(6月号)

- 4月の鉱工業生産指数は2カ月連続の前月比プラス。駆け込み需要の反動が懸念されたが、足下、生産は1-3月期平均を上回る増産となった。
- 5月の輸出額は前年比+1.2%と15カ月連続の増加。円安による輸出増の効果は剥落してきた。輸入額は駆け込み需要の反動減により横ばい。結果、純輸出額は3カ月連続の赤字も、赤字幅は前月から大幅縮小。
- 駆け込み需要の反動減が緩和され、5月景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月ぶりに改善。夏の賞与増加の期待などから、先行き判断DIは2カ月連続で改善。同月の消費者態度指数も2カ月連続で改善。
- 5月の大型小売店販売は駆け込み需要の反動減の影響が和らぎつつある。
- 5月の新設住宅着工戸数は3カ月ぶりの前年比マイナス。好調が続いていた貸家が下落に転じたことから、全体の大幅な下落につながった。
- 5月の有効求人倍率は、1.02倍と前月から小幅上昇。製造業中心に2カ月連続の改善。一方、失業率は4.0%で前月から低下しており、雇用情勢は好調が続く。
- 5月の公共工事請負金額は前年比3カ月連続の大幅プラス、前月比は2カ月連続の大幅プラス。4月の建設工事も24カ月連続の前年比プラスであるものの、伸び率は9カ月ぶりに1桁となった。足下、請負金額と出来高との間に乖離が見られる。
- 5月の中国企業のセンチメントは改善を見せているが、輸出や雇用の指数は依然として弱い。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。

鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所

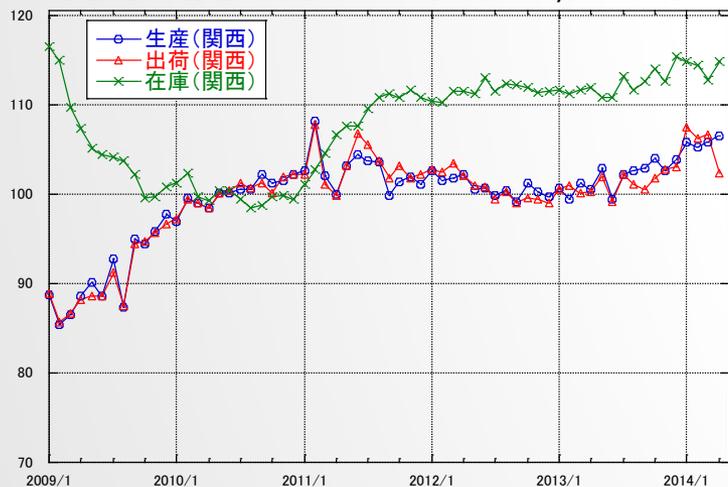
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

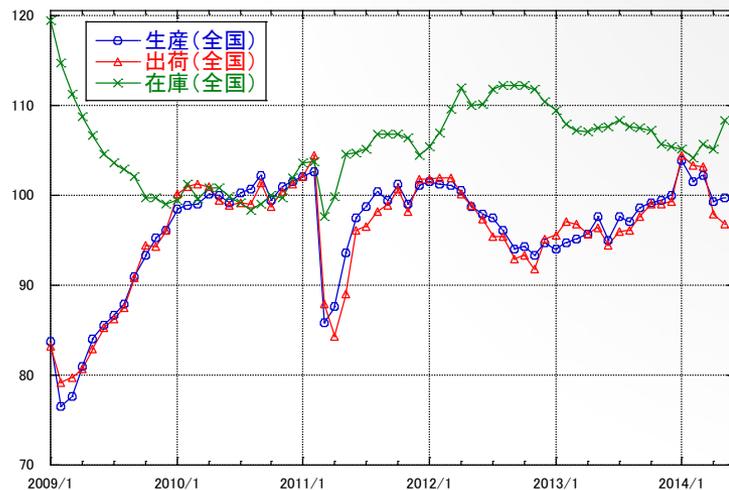
～生産～

鉱工業指数の推移(近畿・2014年4月まで), 2010年=100



(データ出所: 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局)

鉱工業指数の推移(全国・2014年5月まで), 2010年=100

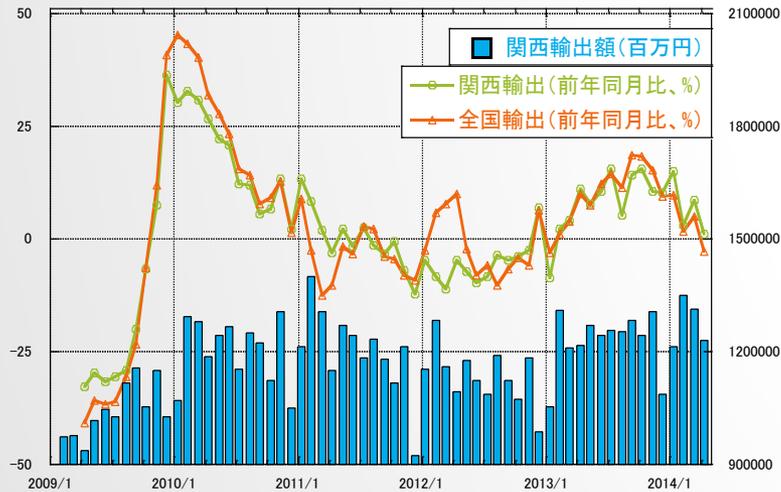


(データ出所: 「鉱工業指数」、経済産業省)

- 関西における4月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済)は、生産は106.5で前月比+0.6%と2カ月連続の上昇、出荷は102.4で同-4.0%と2カ月ぶりの下落。在庫は114.9で同+1.9%と4カ月ぶりに上昇した。
- 業種別に生産指数をみると、電子部品・デバイス(同+9.3%)、金属製品(同+5.1%)、電気機械(同+2.4%)等が上昇した。一方、化学(除. 医薬品)(同-4.6%)、その他(同-7.9%)、鉄鋼(同-3.3%)等が低下した。
- 当初駆け込み需要の反動減が懸念されたものの、消費増税後も関西の生産は増産が続いている。4月実績は、1-3月期平均に比して+0.9%高い水準となっている。
- 全国における5月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は99.8となり前月比+0.5%と2カ月ぶりの上昇。出荷は96.8で同-1.2%と4カ月連続の下落。在庫は108.3で同+2.9%と2カ月ぶりの上昇となった。
- 業種別にみると、輸送機械(同+1.9%)、繊維(同+1.9%)、電子部品・デバイス(同+0.4%)等を中心に増産となった。一方、化学(除. 医薬品)(同-4.5%)、情報通信機械(同-9.3%)、はん用・生産用・業務用機械(同-1.5%)等は減産。
- 前月の生産予測調査にあったように、5月は幾分増産(前月見込み+1.7%)となった。駆け込み需要の反動減の影響は、薄らいできたように見えるが、今月の生産予測調査では、6月は依然として-0.7%の減産の見込み(前月見込み-2.0%)。7月に増産(+1.5%)が見込まれているものの、出荷のマイナスが続いていることもあり、今後の生産動向は見極めにくい。

～輸出入～

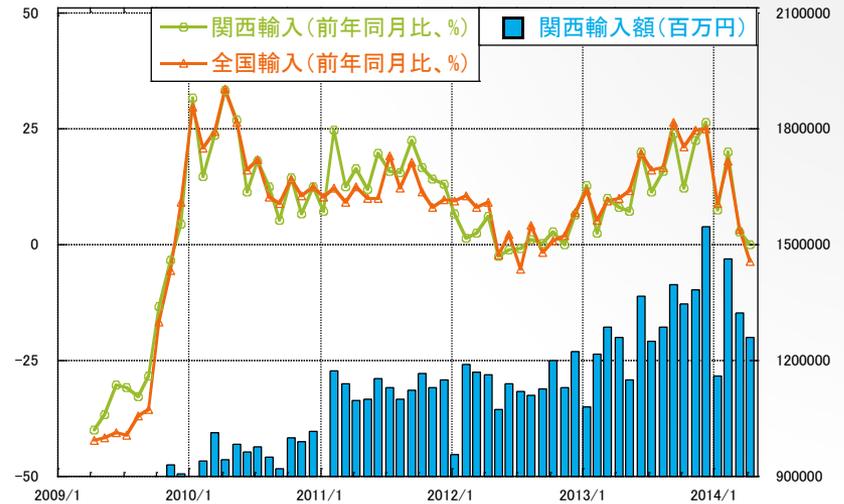
輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）（2014年5月まで）



（データ出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課）

- 関西5月の輸出額（速報値）は1兆2,312億円、前年同月比+1.2%と15カ月連続の増加だが、伸びは3カ月連続で1桁となっている。
- 輸出増加に主に貢献したのは、原動機(単月過去最高)、重電機器(単月過去最高)、科学光学機器(単月過去最高)であった。
- 税関長公示レートによる為替レートが前年同月比+2.9%の円安であり、輸出の伸びは弱含みとなった。
- 全国5月の輸出額（速報値）は5兆6,076億円、前年同月比-2.7%と15カ月ぶりの減少。鉱物性燃料、船舶、自動車等の輸出が減少した。

輸入動向（右：輸出額、左：前年同月比）（2014年5月まで）



（データ出所：「財務省貿易統計」、財務省）

- 5月関西の輸入額（速報値）は1兆2,588億円、前年同月比-0.0%と横ばい。
- 原油及び粗油(単月過去最高額)、天然ガス及び製造ガス(単月過去最高)、医薬品(単月過去最高)等を中心に輸入は増加も、通信機、衣類及び同付属品、鉄鉱石の輸入が大きく減少した。
- 駆け込み需要の反動減による輸入減により、輸入の伸びは一服となった。
- 全国の5月の輸入額（速報値）は6兆5,165億円、前年同月比-3.6%と19カ月ぶりの減少。原粗油、通信機、石炭等の輸入が減少した。
- 結果、関西の貿易収支は-277億円と3カ月連続の赤字(前年同月比-35.5%)となったが、赤字幅は3カ月連続で縮小。全国5月の貿易収支は-9,090億円と23カ月連続の赤字となったが、赤字幅は2カ月連続で縮小(前年同月比-8.3%)。

～消費者センチメント～

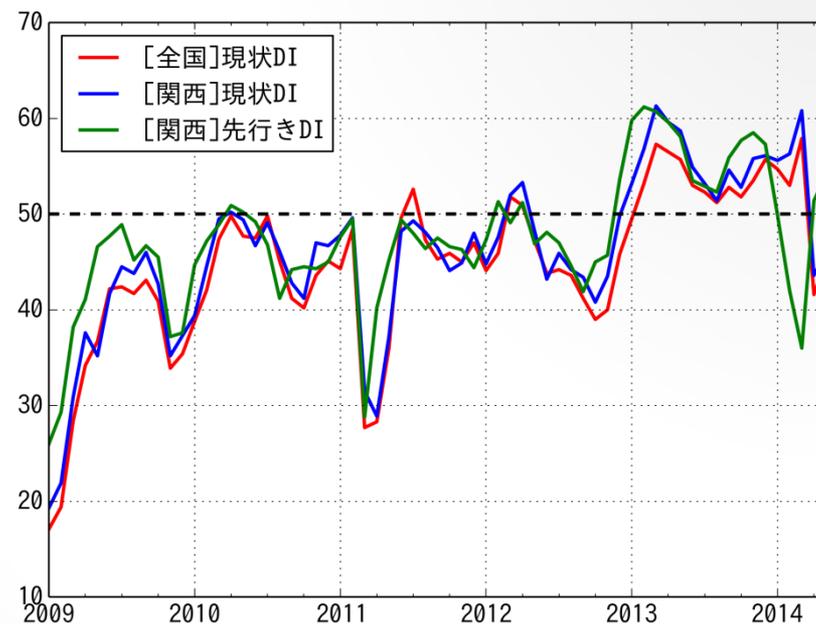
消費者態度指数(2014年5月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年6月9日公表)

- 関西の5月の消費者態度指数(原数値)は前月比+2.4ポイントの39.5と、2カ月連続で改善した。2013年1月(+3.5ポイント)以来の上昇幅となった。冷え込んでいた消費者心理が改善しはじめたようである。
- 同指数の構成項目をみると、4つの指標全てが前月から改善している。「暮らし向き」は前月比+2.8ポイント、「耐久消費財の買い判断」は同+5.1ポイントといずれも2カ月連続で改善。「収入の増え方」も同+0.6ポイントと3カ月連続のプラス。加えて「雇用環境」も同+1.2ポイントと4カ月ぶりにプラスに転じている。
- 全国の5月の消費者態度指数(季節調整値)は39.3となり、前月比+2.3ポイントで6カ月ぶりに前月を上回った。

景気ウォッチャー調査(2014年5月まで)

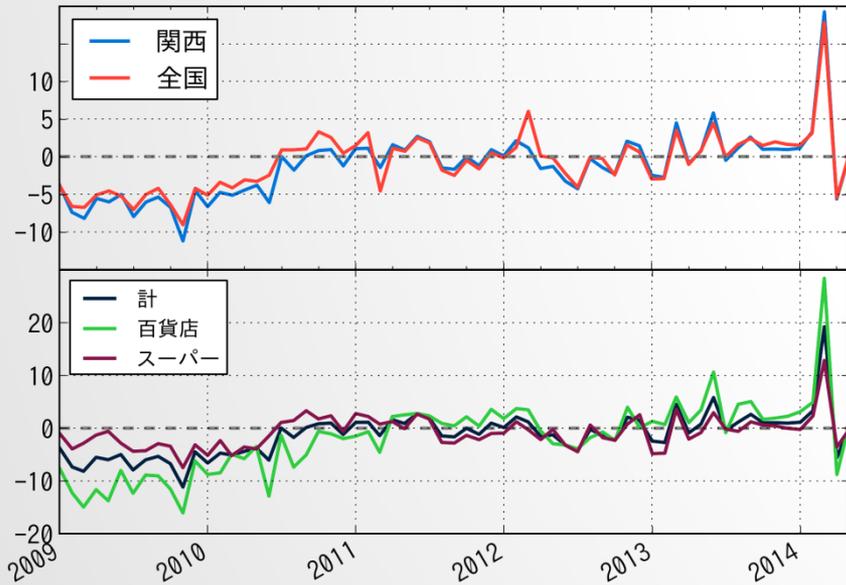


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年6月9日公表)

- 関西の5月の現状判断DIは前月比+2.3ポイントと前月の大幅落ち込み(同-17.2ポイント)から2カ月ぶりに改善し45.9となった。
- 百貨店や自動車販売を中心に駆け込み需要の反動減の影響が緩和されつつある。
- 全国も同+3.5ポイントの45.1と2カ月ぶりの改善。
- 先行き判断DIは、夏の賞与増加の期待などから、関西では同+2.7ポイントの54.1、全国では同+3.5ポイントの53.8となった。いずれも2カ月ぶりの改善。

～個人消費・住宅～

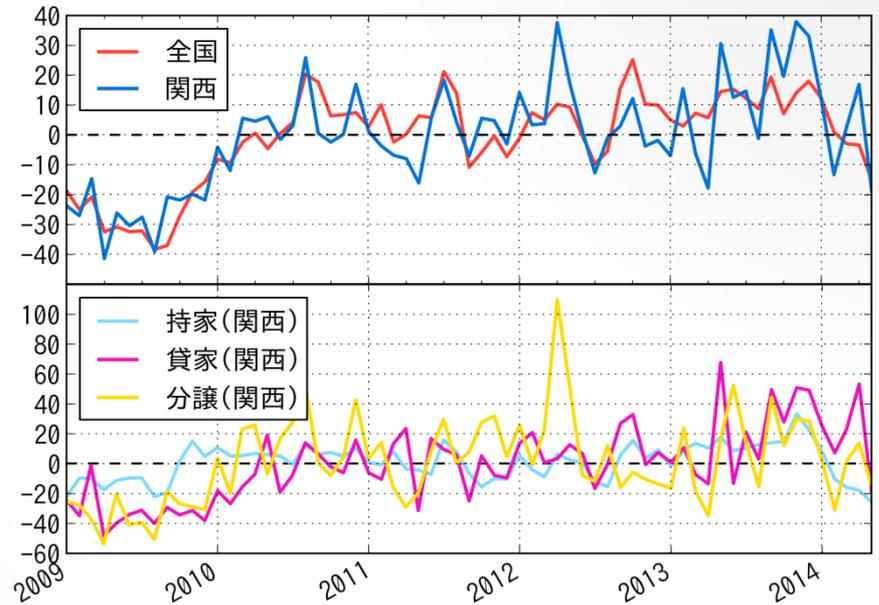
大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年5月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)経済産業省「商業動態統計」(平成26年6月27日公表)

- 関西の5月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.1%と2カ月ぶりの小幅プラス。百貨店も同+0.6%と2カ月ぶりのプラス。スーパーは同-0.2%と2カ月連続のマイナス。
- 消費増税から2カ月が経過し、駆け込み需要の反動減の影響が和らぎつつある。
- 全国では、5月の大型小売店販売額(全店ベース)は同-0.5%と2カ月連続のマイナスとなっている。

新設住宅着工(前年同月比:%、2014年5月まで)

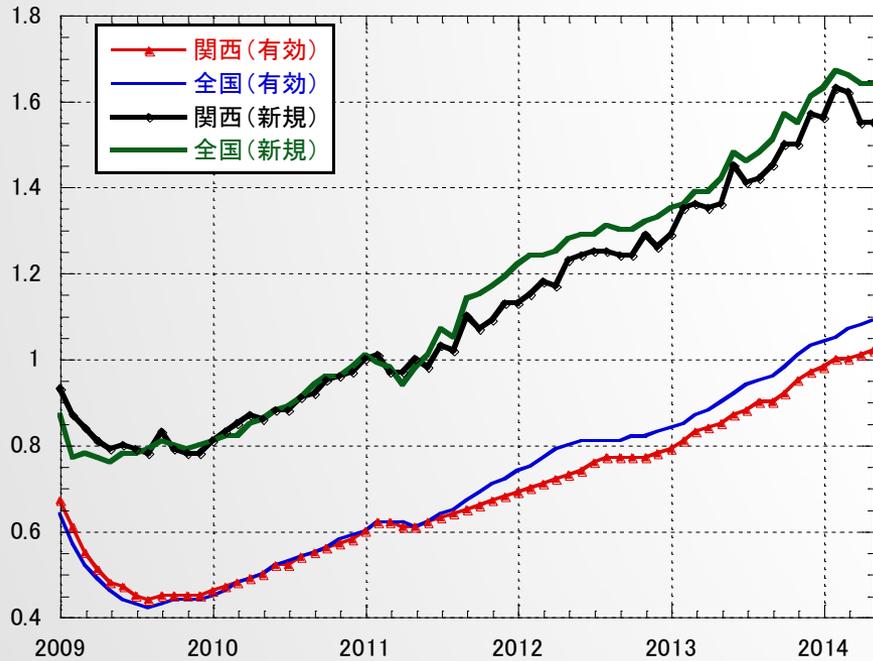


(出所): 国土交通省「住宅着工統計」(平成26年6月30日公表)

- 関西の5月の新設住宅着工戸数は10,095戸。前年同月比-18.6%と3カ月ぶりの下落。駆け込み需要の反動減に加え、好調が続いていた貸家が下落に転じたことから、全体の大幅な下落につながった。全国でも同-15.0%と3カ月連続で下落しており、下落幅が拡大している。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-25.8%と4カ月連続のマイナス。貸家は同-19.0%と11カ月ぶりの前年比マイナス。分譲も同-15.3%と3カ月ぶりに下落した。
- なお5月の関西マンション契約率は81.3%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を32カ月連続(原数値は4カ月連続)で上回り、好調を維持している。

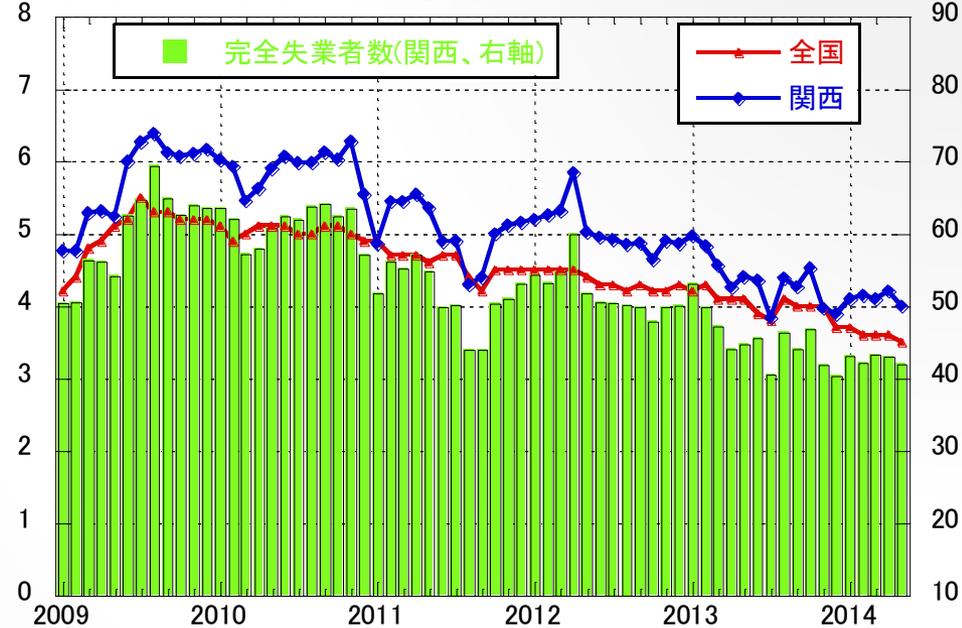
～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年5月まで）



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(2014年6月27日公表)

完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2014年5月まで）



(出所) 総務省「労働力調査」(2014年6月27日公表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年5月)

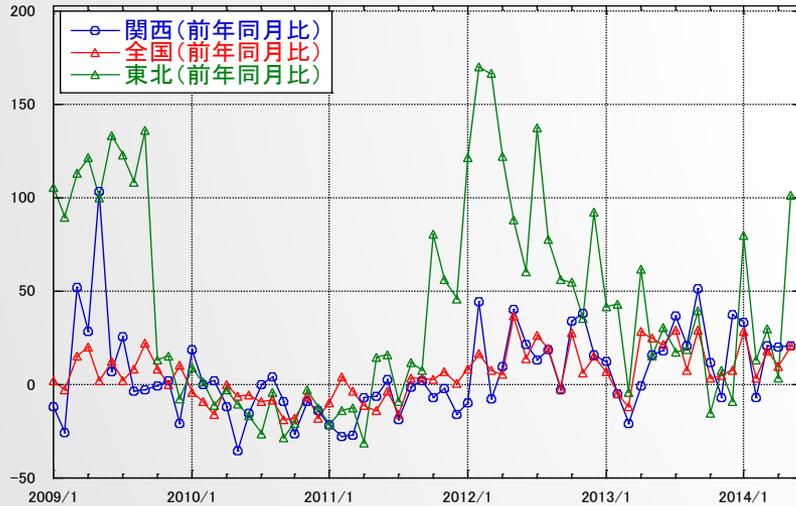
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
5月	1.09	1.02	1.04	1.01	1.10	0.88	0.90	1.06
4月	1.08	1.01	0.99	1.01	1.09	0.87	0.91	1.01

- 5月の関西の有効求人倍率は、機械や金属などの製造業で求人数が伸び、1.02倍で前月から0.01ポイント上昇(2カ月連続の上昇)。全国は1.09倍で同0.01ポイント上昇。18カ月連続の改善で、1992年6月(1.10)以来の高水準を記録した。消費税率引き上げ後も好調が続いている。
- 5月の関西の新規求人倍率は、1.55倍と前月比横ばい。同様に全国も1.64倍と前月比横ばい。
- 関西の有効求人倍率を府県別にみると、滋賀県で1.04倍と2008年6月ぶりに1倍台を回復。和歌山県では2カ月連続で1倍台を維持しており、雇用情勢は明るい状況が続く。

- 5月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.0%となり、前月から0.2ポイント低下し2カ月ぶりの改善。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.5%となり、前月から0.1ポイント低下し、3カ月ぶりの改善。アジア通貨危機の影響が顕在化する前の1997年12月に並ぶ低水準となった。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は41.7万人。前月から1.4万人減少した。

～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2014年5月まで)

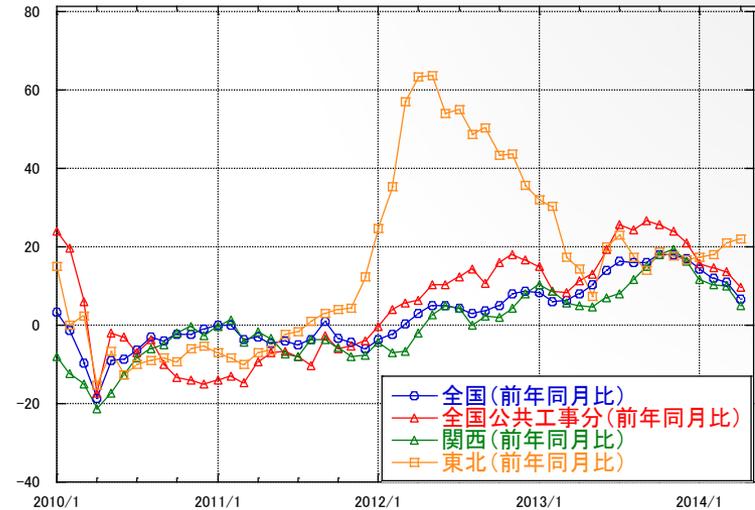


(注) 福井県を含む。

(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 5月の関西の公共工事請負金額は1,737億円。前年同月比+21.1%と3カ月連続のプラス。伸び率は20%台を維持。
- 全国は1兆3,126億円と同+21.1%、14カ月連続のプラス。
- 東北は2,808億円と同+101.8%と、5カ月連続の大幅プラス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は2カ月連続の前月比大幅プラス(関西：同+35.2%)、全国も2カ月連続の大幅プラス(全国：同+24.6%)であった。
- 請負金額は関西、全国共に伸び率は高水準であり、東北の伸び率は2012年7月以来の3桁となった。2月に決定された補正予算の影響が出てきたようである。

建設工事(前年同月比:%、2014年4月まで)

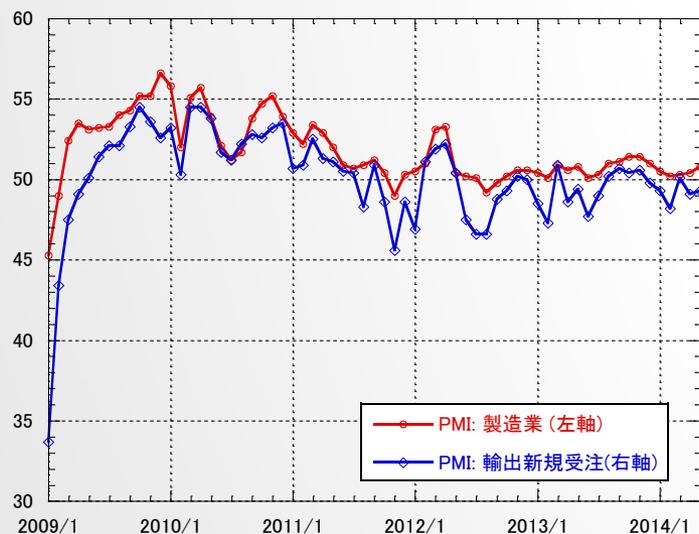


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西4月の建設工事は4,424億円。前年同月比+4.9%と24カ月連続のプラスだが、伸び率は9カ月ぶりに1桁となった。
- 東北は4,504億円と同+22.0%と33カ月連続のプラス。伸びは依然20%台を維持。
- 全国の建設工事は同+6.6%増加し3兆5,120億円となり、27カ月連続のプラスだが、6カ月連続で減速し1年ぶりに1桁の伸び。公共工事は1兆3,783億円、同+9.7%と27カ月連続のプラスだが、7カ月連続で伸びは減速。全国の伸びは減速している。
- 足下、公共工事請負金額と出来高との間に乖離が見られる。これは未消化工事高の推移が近年高水準になっているためであり、今後注意が必要である。

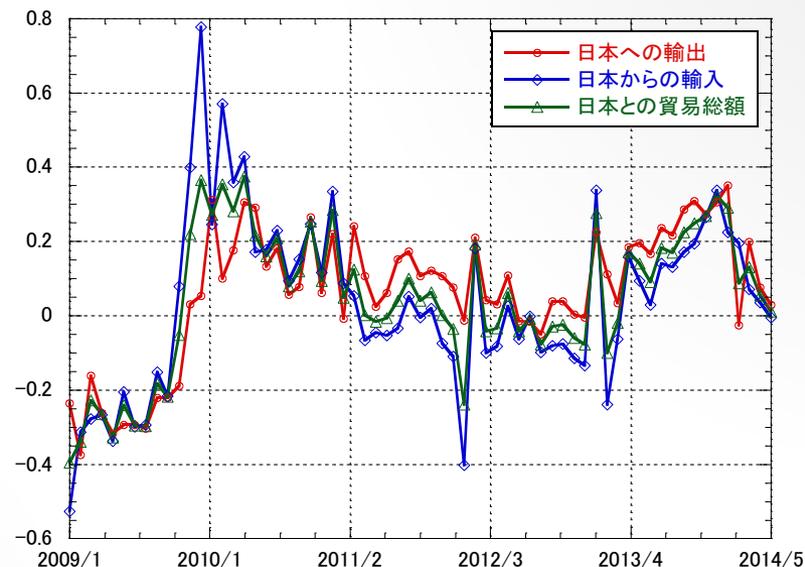
～中国経済動向①～

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年5月まで:%)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年5月まで:%)



出所：中国海关总署; CEICデータベース

- 5月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から+0.4ポイント上昇し、50.8と3カ月連続の改善となった。
- うち、生産指数は52.8と同+0.3ポイント小幅上昇し、2カ月ぶりのプラス。新規受注指数は52.3となり、同+1.1ポイント大幅に上昇し、3カ月連続のプラス。一方、輸出新規受注は同+0.2ポイントと2カ月ぶりに小幅上昇し、49.3となったが、2カ月連続で50を下回った。また、雇用指数は48.2となり、同-0.1ポイントと幾分低下し、3カ月ぶりに悪化した。2012年6月以来、24カ月連続で50を下回っている。
- 企業のセンチメントは改善を見せているが、輸出や雇用の指数は依然として弱い。

- 5月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+7.0%増加し、2カ月連続のプラスとなった。輸入額は同-1.6%(速報値)となり、先月(+0.9%)よりマイナスに転じた。
- うち日本への輸出額は同+2.2%と3カ月連続のプラスとなった。日本からの輸入額は同-1.1%と3カ月連続のマイナスとなった。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+2.9%となり、3カ月連続のプラスとなった。日本からの輸入額は同-0.4%と14カ月ぶりのマイナス。

～中国経済動向②～

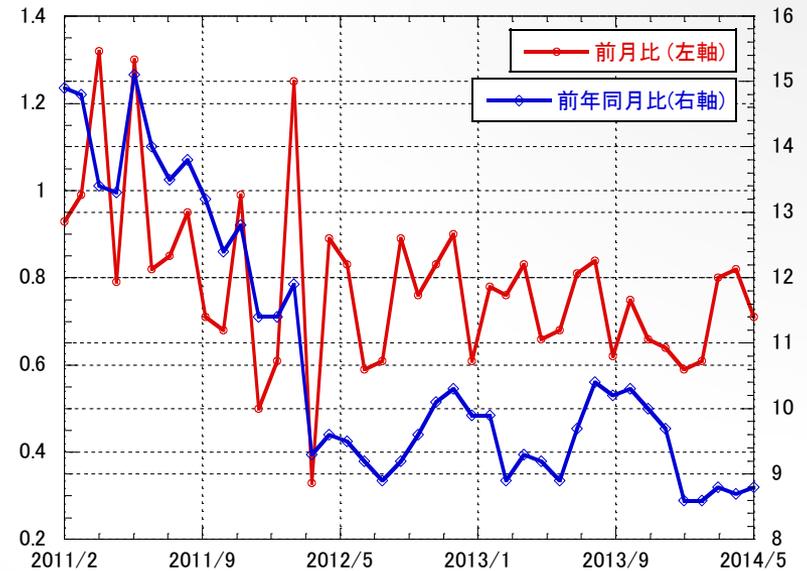
中国固定資産投資動向(2014年5月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 2014年1-5月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+17.2%となり、1-4月期(同+17.3%)から幾分減速した。昨年1-8月期 (+20.3%) 以降減速が続いている。
- 産業別に見れば、第1次産業は同+20.8%、第2次産業は同+14.0%、第3次産業は同+19.5%となった。

工業生産動向(2014年5月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 5月の工業生産は、前月比+0.7%と4カ月ぶりの減速となった。一方、前年同月比は+8.8%と前月(+8.7%)より幾分拡大した。
- 産業別に見ると、医薬製品製造業(前年同月比+14.9%)、有色金属の製錬・圧延加工業(同+14.2%)、鉄道・輸送機器製造業(同+14.1%)、自動車製造業(同+13.4%)が高い伸びを示す一方で、繊維工業(同+7.7%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+7.4%)、電力・熱力生産・供給業(同+3.5%)は比較的低調な伸びにとどまった。